

## 1) 研究課題名

**IgA 腎症患者における、口蓋扁桃、および末梢血リンパ球を用いた免疫応答解明に関する基礎的研究**

## 2) 研究目的と意義

**IgA 腎症**は、日本では比較的多い原発性糸球体疾患ですが、ステロイドや免疫抑制剤による早期の治療介入により以前より治療成績は改善したものの、未だ緩徐進行性の難治性疾患であり、さらなる病因解明にて副作用の少ない有効な治療法の解明が望まれています。**IgA 腎症**は上気道感染時に悪化する例を認め、粘膜免疫が病因に深く関与すると考えられています。口蓋扁桃摘出による腎症改善の報告が多くみられるため、多くの患者さんで口蓋扁桃摘出を施行しています。**IgA 腎症**の病因として、分子異常を伴った **IgA** 自体や、異常 **IgA** に対する特異的な自己抗体との免疫複合体が糸球体に沈着し、補体系の活性化を介して炎症を惹起することが考えられています。**IgA** は、免疫蛋白であり、その産生は、免疫担当細胞によって制御をうけています。口蓋扁桃においては、**CXCR5 + 濾胞性ヘルパー T 細胞 (TFH)** が B 細胞の分化、抗体産生に深く関与しており、その抑制には **FoxP3 + 濾胞性制御性 T 細胞 (TFR)** が関わっているとされていますが、詳細はあきらかではなく、**IgA 腎症患者**における口蓋扁桃リンパ球の機能解析、およびその病態への関与はまだ十分に行われていません。

そこで、この研究では、**IgA 腎症患者**における口蓋扁桃と末梢血の **TFH**、**TFR** を含めたリンパ球の分布や機能解析を介し、**IgA 腎症**の病態解明を行うことを目的としています。

## 3) 対象患者

- 腎生検にて **IgA 腎症**と診断され口蓋扁桃摘出手術を受けられた方
- 20 歳以上の方

比較対象として、

- 20 歳以上の成人で、口蓋扁桃摘出術を受け、腎症を伴わない方

ただし、すでに免疫抑制療法を開始されている方は、参加できません。

## 4) 方法

腎生検にて **IgA 腎症**と診断され口蓋扁桃摘出手術予定されている方で、同意がいただけましたら、リンパ球の解析と血清成分（血液の血球以外の成分）を解析します。

- 末梢血リンパ球、口蓋扁桃浸潤リンパ球;FACS法にてリンパ球の分画をしらべ、どのような働きをするリンパ球が多いか検討します。
- 血清の成分は、免疫システムの細胞から分泌されるタンパク質であるサイトカインについて調べます。

残った検体は、名古屋大学分子細胞免疫学にて保管されます。調査項目が追加されることがあります。この場合も、使用について倫理委員会に申請しホームページで情報が公開されます。

研究の成果は、提供者本人やその家族の氏名などが明らかにならないようにした上で、学会や学術雑誌及びデータベース上等で公に発表されることがあります。

研究責任者：名古屋大学医学部腎臓内科 教授 丸山 彰一

○問い合わせ先

名古屋大学医学部腎臓内科 TEL : 052-744-2192 FAX : 052-744-2209

○苦情の受付先

名古屋大学医学部総務課 TEL : 052-744-1901